

探究するために必要な資質・能力を育む 理科の授業づくりに関する研究

研究の背景

① 学習指導要領改訂の具体的な方向性

小・中・高等学校教育を通じて、知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、見通しを持って観察・実験を行い、その成果を整理し考察するなどの**探究的な学習の充実を図る**。
【中央教育審議会答申（平成28年12月）】

② 過去の調査研究から明らかとなったこと

理科における系統性、科学と人間生活との関連をテーマとした過去2回の研究において、それぞれの視点から授業づくりの方策を検討し、授業実践を行った。課題とする背景は異なるものの、いずれの研究においても、県内の中学校、高等学校の理科の授業づくりにおいて、生徒が**科学的に探究する学習を行うことの重要性**が明らかとなった。

研究の内容

新学習指導要領を踏まえた 科学的に探究する学習の在り方の検討

<1年次の内容>

- 探究の過程を意識した授業の検討・実践及び成果、課題等の明確化
 - ・育成を目指す資質・能力
 - ・探究の過程を意識した授業づくり 等

<2年次の内容>

- 単元等のまとまりの中で探究的な学習活動を効果的に位置付けた授業の検討・実践と検証
 - ・1年次の成果・課題を踏まえた授業実践の検討
 - ・授業実践と成果の検証、まとめ

探究的な学習活動を効果的に位置付けた授業づくりの提案、実践事例の紹介（理科指導資料作成）

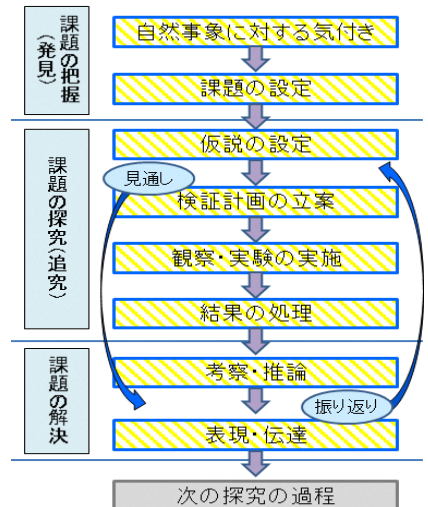


図 資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ（高等学校基礎科目の例）
【中央教育審議会答申別途資料（平成28年12月）】

研究の活用

- 校内や地区の研修会で活用できるように県内の中学校・高等学校に理科指導資料（冊子）を配布する。
- 研究を踏まえた研修講座（希望型研修）を実施する。
- 学習指導に関する研修講座（経験年数別研修、希望型研修）及び理科の授業づくりに関する学校支援の際に活用する。
※実践事例の紹介、授業づくりに関する演習 等

